

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために



奉仕と親睦
夢と希望を持って活動しよう

国際ロータリー会長 カルヤン・パネルジー

2011～2012

富津中央RC会長 小野 恒靖

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2229 第21回例会 2011. 12. 8 小雨

点 鐘：小野恒靖 会長

進 行：千葉一利 SAA

ソング：我等の生業

会長報告

例会終了後 理事会を開催いたします。

幹事報告

会長挨拶

須藤 隆 幹事

小野恒靖 会長



白石さんお久しぶりです。4日の日曜日に志駒の紅葉狩りにいってきました。国際交流協会の企画によるもので、もみじロードを10人のグループで歩き、昼食はもみじを見ながらノンアルコール・・・少し残念で頬は赤くなりませんでした。もみじは昨年同様とても赤く綺麗でした。

最近気なることケアマネジャーの立場から一言。

高齢者への虐待が年々増え続けています。中でも家族、親族による虐待が前年比6.7%増の16668件で、又、介護職員による虐待も急増し26.3%増の96件でした。厚労省は、家事に不慣れで介護の負担を強く感じ、仕事と両立困難な場合に起き易い、と分析しました。



皆さんこんにちは。先週の指名委員会で来期の役員の骨格が決まり、今年度も折り返し点が近付いてきました。ロータリークラブ細則の見直しについては、皆さんからご意見を頂き、最終的なものとしてまとめましたので、来週皆様に原案を配布いたします。皆様に内容確認していただいた上で、近々の例会にて承認を得たいと思いますのでご承知ください。

12月22日は今年最後の例会で、家族忘年夜間例会となります。後程、高島親睦委員長が具体的な催しについて話されると思いますが、みなさんと共に楽しく1年間を締めくりたいと思います。

1. ガバナー事務所よりクラブ会報表彰に関するお知らせ

地区協議会においてクラブ会報優秀クラブを表

〒293-0042 富津市小久保2868
さざ波館 Sazanami-kan
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,
Zip code 293-0042
Tel.0439-65-3373 Fax.0439-65-3304
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



水海堂

彰予定のため、12月1日～末日までの各クラブの会報をガバナー事務所に1月15日まで提出すること。

2. 木更津RCよりクラブ幹事交代と例会変更のお知らせ

12月1日よりクラブ幹事を長野史郎氏から梶暉芳氏に変更

12月29日の例会日を12月27日

点鐘PM6:30に変更

3. 比国育英会バギオ基金より事業報告書および寄付の依頼を受領 回覧

誕生祝



大須賀三智男 昭和25年12月3日

誕生一言

大須賀三智男 会員



誕生祝いを頂き有難うございました。昨年還暦を迎え、今年は二人の孫も生まれました。

誕生から今日まで大きな事故や病気もなく、無事に生きてくることができました。この先何年生きられるかわかりませんが、両親の歳(73歳)までは生きたいと思っております。

とにかくこれからの人生悔いを残さないようにしていきたいと思っております。

委員会報告

クラブ管理運営委員会

高島治雄 親睦担当部長



ここに改めて親睦部会から、来る22日の忘年家族例会についてお知らせします。

1. 場所 いちかわ寿し
2. 日時 12月22日 午後6時
3. 会費 会員4,000円 家族2,000円
4. 催事
 - ① プレゼントの交換
会員一人500円から1,000円程度のものをご持参ください。
 - ② カラオケ・合唱もお楽しみに
 - ③ ご婦人方のダンス、今年も期待します。
5. 出欠 15日までに出席をお知らせ願います。

卓話

若鍋武良 会員



—ブラジル—

「ロータリーの友」8月号に「アマゾン森は今」のタイトルで、45年間現地ブラジルで生活している長坂優氏(アマゾン森林保護植林協会会長)の回想録が掲載されていました。読んで感動しましたので、ブラジルに関するお話をします。

(1)「アマゾン河流域」

長坂氏は東京農大生の時、戦後初の学生アマ

ゾン研修生として、1年間現地に滞在し、農大卒業と同時にアマゾンに移住したそうです。長坂氏は「ブラジルとアマゾン」について次のように述べています。

南米には12の独立国があり、ブラジルは10か国と国境を接している。ブラジルの面積(国土の面積は世界で5番目に大きい)は日本の23倍で、国土の半分以上(日本の13倍の面積)をアマゾン川流域が占めている。

アマゾンが自慢出来る物として二つある。乃ち、①地球上にある酸素の三分の一をアマゾンの自然がつくっている。②アマゾン川はアンデス山脈に降った雪が源流で、総距離6,992km(日本からシンガポールに到る距離)で世界一長い川です。また河口の川幅は360kmで、上越新幹線で東京から新潟までと同じ距離、即ち本州の幅がアマゾン川の河口の川幅です。

又、アマゾンの自然が教えてくれた事として私達人間は、目に見える物を大事にするけれども、本当に大事な物は目に見えない物であることをアマゾンが教えてくれました。空気は目に見えないけれども、一番大切なものです、と長坂氏は語っています。

(2)ブラジルにおけるポルトガル語

ブラジルの話し言葉はポルトガル語です。大航海時代、アメリカ大陸でメキシコ以南は、十六世紀から十八世紀にかけて、スペインとポルトガルの植民地(ハイチはフランス領)でしたので「ラテンアメリカ」と呼ばれています。ラテンアメリカ諸国20ヶ国の中でブラジルだけがポルトガルの植民地で、今でもポルトガル語を母語としています。ポルトガルは、建国のはじめから海に向かう運命を背負い、海を中心に栄えた国です。(ポルトガル Portugal は「港」を意味する port による)。

1488年にバルトロメウ・ディアスがアフリカ南端の喜望峰発見し、1494年トルデシーリャス条約により地球をスペインとポルトガル両国で二分割。1498年バスコ・ダ・ガマがインド航路発見等の後、1500年探検家カブラルがブラジルに到達し、ポルトガ領とした。以後ブラジルは1822年の独立まで、ポルトガル領で、現在南米で唯一ポルトガル語を母語としている国です。

榎本守男 会員

一難解 西田哲学を齧る一



前座の私が後になりましたが、真打若鍋会員につづいて卓話をさせていただきます。今日は、学生時代に読んで最近まで本棚の隅で埃をかぶっていた西田幾多郎著「善の研究」について話します。

当時必読の書と言うことでチャレンジしましたが、最初の4、5ページで投げ出していました。60歳過ぎれば違った感性で理解できると信じての再々挑戦です。

そこで古い本に別れを告げ講談社「善の研究」全注釈小坂国継版を購入しました。再び前回の轍を踏まないように助っ人のパソコンを傍らに読む態勢を整えました。ここまでの準備は完璧です。嘗ては何の予備知識なしに読み始めましたが、今回はパソコンを相棒として検索しながらです。

まず哲学とは、検索 Enter 哲学とは概念的思考を通じて多様な主題について検討し研究する学問とある。明快ではあるがこれでは理解困難である。哲学とは何だろう。検索 Enter この世界は一体何なのか？この世界で生きる私とは何なのか？学問としての哲学で扱われる主題は、真理 本質 知識 観念 行為 経験 世界 善 美 等の抽象度の高い概念であり、その探求である。

物事をまっすぐ見つめ何物にもとらわれず自由に考え続ける事、私たちがこの世界に生きているという現実をありのまま理解し、そして、いかに生きていくべきかを考えようとする事である。世界や私の在り方を、曖昧に目をそらさず徹底的に考えぬく事、その思考を出来るだけわかりやすい言葉で正確に語る事これが哲学という学問の基本的な姿である。

哲学に対してこの程度の知識を持って、近代日本の独創的な哲学書「善の研究」を著した西田幾多郎を齧っていきます。石川県金沢市近郊で187

0年に生れ、東京帝国大学哲学科で学び、京都大学で教鞭をとる。1911年すでに発表した論文を集めて一冊の著書としたのが「善の研究」である。「善の研究」の解りやすい一つのイメージとしてゆきゆき亭著の解説に以下のように記述されています。

黄昏の金沢へやってきた。明治初期、かつての加賀百万石の繁栄は、少しも失はれていなかった。大通りには、仕事を終えた人、仕事を終わらせようとしている人、夕飯の買い物に行く人、これから夜の街に繰り出す人、人力車、荷物を乗せた馬、いろいろな人が通り過ぎる。「いろいろな人がいて、お互いぶつかりあい、罵りあっても、結局、人はみな同じ道を通る。そして全体としてみれば、街は平和で、変わらぬ日常が脈々と営まれている。」

これを哲学的に言い換えると、混沌とした中に秩序があり、多様でありながら統一され、矛盾しているけど同一である。これが世界の真の姿である。私は、この解説によって西田哲学に少し接近したように感じました。話は序文の域から出ませんが、もう予定の時間が来てしまいました。次の機会に、第一編 純粹経験、第2編 實在、第3編 善、の話をしたと思います。

最後に西田幾多郎京都大学退官の挨拶を紹介して終わりとします。「私の生涯は極めて簡単なものであった。前半は黒板の前に坐した。その後半は黒板を後ろにして立った。黒板に向かって一回転をなしたと言え、それで私の伝記は尽きるのである。」

私も、成長と言う黒板の前で前半は社会の様々な人から愛情を授かり後半はそれをお返りする。そんな簡潔な人生でありたいと願っています。ご静聴ありがとうございました。

ニコニコ BOX

刈込一弥 親睦担当委員

大須賀三智男 誕生日祝いを受けて

小野恒靖 ①榎本・若鍋会員、卓話ありがとう

②白石会員から写真を頂いて※

若鍋武良 卓話を聞いて頂いて

榎本守男 同上

(*^*)情報

白石幸久会員

※皆さんに差し上げた地区大会の写真は、君津ロータリークラブ小幡倅会員、から戴いたプロの写真です。

出席報告

山田昌男 出席担当委員

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	20/19	15	4		78.95%
前回	20/20	17	3		85.00%

理事会報告

出席者 小野、高橋 須藤、大網、千葉、白石、若鍋、大須賀

1. 今後の例会プログラムについて

12月15日 卓話 佐藤会員、刈込会員

12月22日 忘年家族例会 点鐘PM6:00 (於) いちかわ寿司

12月29日 休会(定款による)

1月5日 休会(定款による)

1月12日 会長年頭所感、順次会員年頭所感 結婚・誕生祝

2. クラブのURL変更に伴う無料メールアドレス利用について

標記の件、理事会にて確認し、利便性に資するものとして利用を進めることとした。

45周年委員会報告(第2回)

出席者 佐藤・小野・須藤・志波・高島・石渡

記念事業案募集で選ばれた「浅間山花園計画援助」と、「岩瀬海岸駐車場砂防植物試験植栽」の内、後者について協議がなされました。

その結果パンパグラスへの認識・作業手順・およびその経費・危惧要項・関係方面の理解等、更に検討の上、来春の実施をめどに進める方向としました。

その後、現地に移動、植栽場所・規模、はまひるがおの繁茂状況、等、現状の観察をしました。